奈良 いのちの電話

2026 新年

第403号

社会福祉法人　奈良いのちの電話協会
事務局／〒631-0816 奈良市西大寺本町8-27
TEL：0742-35-0500
FAX：0742-35-0533
e-mail：nid@nara-inochi.jp

特集　こども・若者の助けて!!の声にこたえて

認定NPO法人D×P 理事長　**今井 紀明** 氏

壷阪寺　大雛曼荼羅

天上に　届け雛(ひいな)の　高御座(たかみくら)

高浜虚子

風鐸

私には孫が３人いまして若いおじいちゃんやねとよく言われます。

11月に七五三参りをしてきました。

孫の存在は、「命の大切さ」を改めて気づかせてくれます。

生まれてきたばかりの小さな命が、多くの人の愛情に支えられている姿は、生命の尊さと繋がりを感じさせてくれます。

私自身の経験を振り返っても、孫の誕生は特別な感動でした。

我が子が親となり、小さな命を見たとき、自分から子へ、子から孫へと受け継がれていく「命の絆」を強く感じました。

この子は、私たち夫婦はもちろん、祖父母、曽祖父母といった、数え切れないほど多くの先祖たちの命の流れの先端にいます。

孫という存在は、その笑顔や無邪気な寝顔を見ているだけで「目に入れても痛くない」と感じるほど愛おしさがこみ上げてきます。ハイハイから立ち上がり、言葉を覚え、日々成長していく姿は生きていることの素晴らしさそのものです。

この成長の過程を見守ることは私たち自身の生きがいにもつながります。

人間だれしも一人で生きているのではなく、もちろん孫も親や祖父母、それらを取り巻く環境によって守られています。

「命は自分一人だけのものではなく、多くの人々の支えがあってこそ成り立っている尊いものである」ということを再認識させてくれます。

孫たちには、将来、生きていることの喜びを感じながら、自分の命、そして他の人の命を大切にして生きてほしいと心から願います。

辛いことや困難なことが必ずありますが、毎日を大切にし、お互いに助け合い、支え合える優しい人間になってほしいです。孫の存在を通じて学んだ、このかけがえのない命の尊さを、次の世代へと伝え、平和な未来へとつなげていくことが、私たちの使命だと思います。

最後に、コロナ禍で「ナシ婚」の長男夫婦が３月に挙式します。

もちろん孫も参列しますので今からワクワクしています。　（尚）

こども・若者の助けて!!の声にこたえて

認定NPO法人D×P（ディーピー）理事長　今井 紀明 氏

今井 紀明（いまい　のりあき）氏

プロフィール

認定NPO法人D×P 理事長

高校生のとき、医療支援活動のため渡航したイラクにて武装勢力に人質として拘束されたことで、帰国後大きなバッシングを受け、対人恐怖症になる。偶然、中退・不登校を経験した若者と出会い、親や先生から否定された経験を持つ彼らと自身のバッシングされた経験が重なり、2012年に認定NPO法人D×Pを設立。経済困窮、家庭事情などで孤立しやすい若者が頼れる先をつくるべく、LINE 相談「**ユキサキチャット**」で全国から相談に応じる。また大阪ミナミの繁華街で若者の居場所となる「**ユースセンター**」を運営しアウトリーチ事業を行なう。ユース世代の声を聴いて伝えることを使命に、SNSなどで発信を続けている。

2025年10月25日（土）、奈良県コンベンションセンターにて、奈良いのちの電話公開講演会が開催された。国内全体の自殺者数が減少しているにもかかわらず、小中高生の自殺者数は過去最多になっている。経済困難や家庭事情などで孤立している若者のために、認定NPO法人D×Pでは個人や企業の寄付を募って、LINE相談や食糧支援、現金給付を実施したり、大阪ミナミに居場所を作って「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会をつくる」ために活動している。

2004年に子どもの医療支援のために渡っていたイラクで、仲間と共に人質になって銃を突きつけられた時、死ぬと思いましたが、国の関係者や様々な方々のおかげで生き残ることができました。帰国してからひどいバッシングに遭って、うつ病やパニック障害、対人恐怖症などで４～５年ぐらい大変でした。でも高校の時の先生や友人などいろんな方々に助けていただいて、社会復帰することができました。これを運が良いということで終わらせるのではなくて、年下の世代のために何かできないかという思いでNPOを立ち上げて、今年で14年目になります。

ユース世代の孤立

認定NPO法人D×P(ディーピー)で取り組んでいるのは13歳から25歳の若者の孤立の問題です。少子化にもかかわらず不登校の子が今42万人いて、児童虐待の数も過去最多で増えています。核家族化が進み、祖父母と暮らしていない、近所付き合いもないという状況のなかで、核家族も壊れてきている。学校でいじめがあったり、友達の家にも遊びに行きにくいというのもあって、なかなか子どもの居場所がない。あるいは高校生や大学生で親に奨学金やアルバイト代を使い込まれたり、親に仕送りしている子もいて、経済的に困窮している若者も多いです。D×Pのスタッフは「否定せず関わる」ということをとても大切にしています。

「ユキサキチャット」というオンライン相談

今１万８千人余りの子が登録して利用しています。（2025年10月現在）Instagram の広告で約３割、Web検索で約２割、あとは学校の先生やスクールソーシャルワーカー、行政、他のNPO法人からの紹介などで応募してきます。奈良市とも協定を結んでいます。スタッフ20人ぐらいで対応しています。日本にはいじめの相談や自殺に関する相談をするところはあるのですが、オンラインによる若者の福祉相談、生活が苦しくて食事がとれていないというような相談をするところがなくて、生活困窮や金銭トラブルの相談が増えたことから、2020年から食糧支援と現金給付を始めました。

食糧支援は、こちらが必要と判断した相談者の自宅に約30食を届けます。基本はお米２kg入りで30食。調理器具を持っていない子や電気・ガスを止められている子にはレトルトや常温で食べられるセットにしたり、シャンプーや歯ブラシなどの日用品、７割は女性なので生理用品なども必要に応じて入れています。食糧支援を希望する若者にアンケートすると、48.2%の子が「ご飯を食べない日がある」と回答していて、6.3%は週３、４日食べない日があるということでした。その背景を見ると、半分ぐらいの子がひとり親家庭で育ったり、あと虐待体験があったり、社会的養護の出身の子など、様々な子たちが来ています。また、ひとり親家庭なんだけれど親がいるようでいない、子どもが小中学生になるともう親がなかなか帰ってこないというようなことで食べられていない子の相談も少なくないです。

現金給付は、月１万円の３か月給付や１回８万円の給付まであります。面談をして身分証明書や銀行口座、借金明細など確認したうえで、生活費、学費、借金、病院への支払いなど、生活を継続するために必要な支援内容を見極めて、安心できる生活に向けて支援しています。相談に来た時点で４割余りの子は借金をしていたり、家賃や電気代の滞納でライフラインが止まっていたりします。経済状況が厳しい子ほど働かないといけないのでライフラインよりスマホのほうが必要だというのもあります。まず緊急支援でライフラインを復活させて、３か月支援する間にアルバイトに繋いだり、社会保障に繋いだりします。ぎりぎりの生活をしている学生が教育実習や看護実習で３週間アルバイトできないとか、就職活動中にアルバイトが減ったりして生活が苦しくなります。支援で４割ぐらいの子は学業継続し、約２割は仕事に就き、また約２割は生活保護など公的制度や民間の支援に繋がって、だいたい状況が改善します。

支援している子が一番多いのは東京、次に大阪、神奈川、埼玉、愛知、兵庫で、人口の多い地域からの相談がやはり多いです。オンライン相談だけだとなかなか難しいケースもあるので、同行支援をお願いするためにほかのNPOと連携し

たり、全国の自治体とも情報共有してサポートしていく方針なのでここまで成果が出せています。支援することで、「元気になりました」「進学できました」というコメントを送ってくれたり、仕事に就いて今度は寄付者になってくれたりというような子も出てきています。ただオンライン相談で難しいのは、自分の問題を言語化できる子、自分で相談してくる子はサポートしやすいけれども、問題を言語化できない子は相談しにくいということです。

これまで食糧支援は37万食、現金給付は１億円になります。応募は年々増えています。大切にしているのは、若者に直接届けるということです。親からの相談は受けず、若者と直接やりとりします。

グリ下に「フリーカフェ」というテントを出す

2020年のコロナの緊急事態宣言の時、大阪ミナミは人がほとんどいなくなりました。そこに虐待を受けた子や家出してきた子たちが集まって、自分たちでコミュニティを作ったのがグリ下（道頓堀のグリコ看板下）。自分たちで逃げ場所を作った力というのはすごいなと思います。でもやはりそこで、性的搾取とか性犯罪、風邪薬などを過剰に摂取するオーバードーズなどのトラブルも多かった。ユキサキチャットにもそういう繁華街にいるような子からの相談もあって、なんとかできないかなという話をうちの若いスタッフが言ってきました。それで、我々スタッフの安全性も考え、商店街や大阪市などに挨拶回りに行って半年間準備して、2022年８月末から「フリーカフェ」という名のテントを出しました。弁当なども提供しながらやっていたら、グリ下の子たちが20～40人ぐらい、暑い日も寒い日も集まってきて、週１回７か月間で700人ぐらい来ました。

今の若者の中には、髪色は青や赤など結構派手でも昔のようなやんちゃ系ヤンキー系のように大人や社会への反抗を表す子は少なくなっていると感じます。一方で怒りやしんどさを外にぶつけるのではなく、自分に向けてしまい、自傷行為などに悩む子が多いです。テントに来た子のなかには、宿泊をサポートしたり、行政の生活保護申請に一緒に行ったり、病院に一緒に行ったりした子もいました。グリ下に来ている子たちは、ユキサキチャットに来ている子たちよりも事情が複合的で、私たちが路上に出ないと絶対会えない子たちなんです。家族や親族から性暴力や経済的搾取を受けていて、学校に相談しても先生も多忙で対応してもらえなかったり、グリ下に来たら警察に補導されて、しんどくて離れているのに親の家に帰されてしまう。また、テレビやYouTubeなどに自分の画像を撮られて意図しない形で流されるなど、大人や社会に対する信頼感が無くなる経験をしていると、なかなか社会に繋がっていこうとしない。それでこれはもうテントを出しているだけではどうしようもないと思って、道頓堀の近くに50坪ぐらいのスペースを借りて住所非公開でユースセンターを立ち上げました。

「ユースセンター」の活動

週２回夕方４時から夜10時までのオープンで50人以上の若者がやってきます。ゲームをしたり友だちと話をしたり、それぞれどう過ごすかを自分で決めています。10人ぐらいのスタッフで運営して、３つの機能があります。

１つは毎回スタッフが手作りした食事の提供。彼らが安心できて楽しめる環境でエネルギーを溜められる場所になることをめざしています。手作りご飯を初めて食べるという子も多いです。レトルトの方がいい子や食べたくない子もいるので、それぞれの希望に合わせています。

２つ目は、個別の相談対応。これまでの経験から誰かに頼ることに対してあきらめや不信感を持っている子が、ここで自分の声を聴いてもらい、自分のことを一緒に考えてくれる人と出会います。そうして大人や社会への信頼感を持てるようになると、これからの生活や困り事について一緒に相談に行くことができるようになります。ユースセンターが開いていない週３日は、面談と同行支援をしています。いろいろなトラブルや借金、妊娠の相談、住居のない子も３割ぐらいいます。大阪市の児童相談所や区役所、病院、産婦人科など多くの機関やNPOとも連携して、住居の確保や生活保護の申請などに関わったり、助産師さんにも定期的にユースセンターに来てもらっています。必要な場合は親との連携もします。虐待とか衣食住が整っていないとか、オーバードーズで体調を崩しているとか、複合的な課題で不安定な状態で過ごしてきた子は、住居が決まって安心すると逆に精神的にしんどくなって、すぐに就職しても続かないということがあるので、ひとりずつ様子を見ながらサポートしていきます。

３つ目は、七夕や夏祭りなどのイベントの開催。クリスマスにはケーキを食べました。地域の人たちとの交流もできていて地域の祭りに参加したり、地域の企業の職場見学に行かせてもらったり、お店のシェフが食事を作りに来てくれるような繋がりもできてきました。

３割ぐらいの子は大阪府外から来ていて、家の経済状況にかかわらず、さまざまな家庭の子が来ています。ちょっと遊びに来てみたという子もいたりします。安心して過ごせるように、暴力行為や、オーバードーズをした状態で来ることなどは禁止しています。

これからの取り組みについて

繁華街に小中高生が来ると、犯罪に巻き込まれるとか性的被害に遭うという危険性があります。そういうものに巻き込まれないように変えていこうという取り組みとして、大阪市長と大阪府知事に来てもらって2023年にグリ下会議を立ち上げました。行政と商店街の方と一緒にここをどうしていこうかという話をしています。

D×Pは、寄付を主な原資として活動し、スタッフの人件費も出している数少ないNPOのひとつです。スタッフには大阪府の平均給与ぐらいを出しています。自分たちで寄付を集めていて、事業規模３億円弱のうち90%が個人や法人の方からの寄付、自治体から0.2%、残りは財団からの支援です。毎月継続して寄付をしてくださる月額寄付サポーターは3,576人です。月額寄付は積み重なるとそれが若者に安定的に支援を届ける基盤になります。

こういう活動は、民間の一つのNPOとしてできることは大きくないかもしれないけれど、他のNPOやいのちの電話などがあることによってセーフティネットとして多くの若者の命と生活が守られていくと思っています。これは寄付やボランティアなど市民の方々の参画があってできることなので、皆さんと連携しながらこれからもやっていきましょう。（A・Y）

支えあう心で

つむぐ ③

～ 地域をつむぐ ～

株式会社南都銀行
取締役専務執行役員　杉浦 剛

「つむぐ」という言葉は、「糸をつくる」という意味から転じ、物事を丁寧に積み重ねていく、何かを織り成していくといった表現として用いられています。

地域の活動に照らして考えますと、地域の発展に向け、様々な支援機関の活動を通じ信頼や協力関係を築くことで、人々のつながりを丁寧に織り成していくことが「地域をつむぐ」と言えるのではないでしょうか。

地域金融機関である当行は、これまで企業の成長や雇用の創出、伝統文化の維持といった様々な課題に対して、金融のみならず地域に根差したサービスを提供して参りました。暮らしの基盤を支え、地域経済を強固で持続可能なものに成長させていくための土台作り、例えるなら「生活の糸」をつむぐ役割を担っています。

一方で、当協会の「いのちの電話」は、孤独や困難を抱える人々の心をつなぎ止めている支援活動です。一人ひとりの命に寄り添い、精神的な支えと共感を通じて、人々の思いや願いを途切れさせない「心の糸」をつむぐ役割であり、地域の精神的健康を支える不可欠な存在と言えます。

経済活動を担う当行と、精神的な支援活動を担う当協会は、それぞれ異なる領域で活動していますが、「生活の糸」と「心の糸」をつむぐ役割を担い、「地域をつむぐ」という点で共通しています。

地域経済が安定し、企業や人々が希望を持てる環境があるからこそ、困難に直面した人々は再び社会へ戻る力を得やすくなるのだと思います。そしてまた「いのちの電話」の活動を通じ、地域全体が孤立を防ぎ互いに支え合う意識を強く持つことで、経済活動や社会生活がより豊かなものになるのではないでしょうか。

当行はこれからも地域の課題に真摯に向き合い、金融のみならず地域に根差したサービスを通じ、地域の発展に尽力していくことは勿論ですが、地域の一員として主体的に社会貢献活動を行い、より豊かな社会の実現に向け取り組んで参ります。

地域社会全体が経済的にも精神的にも支えあい、つながりを強くしていけるよう、「生活の糸」と「心の糸」が織り成す「誰もが安心して暮らせる社会」という「織物」を完成させる為、その架け橋となれるよう、これからも当協会と共に歩んで参ります。　（協会理事）

第48期新相談員就任式と新相談員歓迎会

2025年10月5日（日）、前期・後期8ヶ月の講座と10ヶ月のインターン学習を終えた新相談員12名の就任式と、47期生の企画による新相談員歓迎会が開催されました。新相談員が自己紹介や相談員としての抱負、電話相談への期待や決意を語り、先輩相談員から温かい歓迎の言葉が贈られました。終始和やかな雰囲気の中で歓迎会が進められました。（K・M）

相談員任用書の授与

新相談員歓迎会の模様

第21回チャリティバザー開催

2025年11月16日（日）抜けるような青空の下、恒例のチャリティバザーが開催されました。前日に収穫された大根や白菜、大和真菜、小松菜、蕪などの新鮮野菜がどっさり、そして新米や果物、手作りの手提げ袋や洋服、日用品、雑貨などの品々が所狭しと並べられ、毎年楽しみにしてくださっているご近所の方々が大勢来てくださいました。

またお昼休みにはミニコンサートが開かれ、ギターやオカリナ、大正琴などの演奏や歌、フラダンスも披露され、楽しいひとときを過ごしました。今回のバザーの収益は12万8,310円でした。収益金は奈良いのちの電話の活動等に有意義に使わせていただきます。作物や物品を提供してくださった皆さま、購入してくださった皆さまに感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。（M）

第23回チャリティゴルフ

第23回チャリティゴルフ大会（共同精版印刷㈱・高の原ゴルフセンター共催）が、11月4日、35名の参加で飛鳥カンツリー倶楽部において開催されました。好天に恵まれ日頃の練習成果を十分に発揮される方が多く、楽しい一日を過ごすことができた模様です。参加者の方から102,362円のご寄付をいただきました。なお開催にあたり次の企業ならびに個人の方から賞品などを提供していただきました。

（順不同敬称略）
近畿日本鉄道㈱、奈良交通㈱、奈良豊澤酒造㈱、飛鳥カンツリー倶楽部、高の原ゴルフセンター、共同精版印刷㈱

すこやかテレフォン視察研修

2025年10月９日（木）、まだ日差しは強かったですが、風は涼しく日陰は気持ちよくて秋の訪れを感じることが出来ました。

『平城宮と佐紀古墳群を歩く』ということで、奈良観光ボランティアガイドでもある専門相談員の方に案内していただきながら、参加者11名で一日を過ごしました。大極殿からの平城宮の眺めは、見る者を奈良時代へと誘うようでした。その後、佐紀古墳群をゆったりと歩きながらお話を伺うなかで、歴史の奥深さを感じさせられました。

普段の生活にない素敵な時間を過ごせました。　（Y・K）

友の会　秋の研修・交流会ご報告

「35年目のラブレター」映画鑑賞と交流会を開催しました。

2025年11月27日（木）10時～15時。場所はNID会館３階、参加者は37名でした。

午前の部では、映画「35年目のラブレター」の鑑賞。子ども供の頃に教育の機会を失い文字を書けない主人公が定年をきっかけに夜間学校に通い、最愛の妻への感謝の手紙を書くという実話をもとにした作品でした。主演は笑福亭鶴瓶・原田知世のお二人。

食事を挟んで午後は、映画のモデル奈良在住の西畑 保さんと夜間中学で教師として共に過ごされた田村さんのお話を聴き交流会を行いました。89歳の西畑さんはとても張りのあるお声で映画をきっかけに様々な方々と交流を話されました。田村さんからは夜間中学の現状や活動をお聞きしました。子どもの貧困と教育、夜間中学など改めて考える機会をいただきました。

（M・A）

随想

相談の現場から

50分間の家出

A・M

「私、家を飛び出してきた…」と泣きじゃくりながら途切れ途切れに聞こえる声。「えっ家を飛び出してきたの？」一言も聞き逃してはいけないと受話器を握る手に力が入り前のめりの姿勢になる。「今、どこにいるの？歩きながら電話かけてくれてるの？」「うん…駅の方に向かってる。あのね…」とポツリポツリと話し始めた。

母親が祖母の介護のために実家に数日間帰っている間、彼女は学校、塾、受験勉強、そして家事を受け持って頑張ってきた。ようやく母親が今夜帰宅し、留守の間の出来事をいろいろ話そうと思っていたけれど「お母さんは疲れた、疲れたと言うばかりで私の話は上の空、なんかものすごく悲しくなったし、腹が立って気がついたら家を飛び出してて…」「お母さんていつもこんな感じやねん。いつもバタバタしてて私の話をゆっくり聞いてくれたことほとんどないし、仕事で忙しいのは分かるから仕方ないなって思うけど」

母親の忙しくしている様子を見て、いろいろ彼女なりに気遣って我慢することも多かったらしい。今夜は、母親の顔を見てほっとした気持ちと私の方を向いてほしいという甘えの気持ちも重なって我慢の限界を超え、自分の気持ちを抑える余裕が無かったのだろう。

「気持ちも落ち着いてこられたようなので、そろそろ家に帰りませんか。お母さんも心配されていると思いますよ」「そうかなあ…50分しか家出してないけどね。寒いし帰ります」彼女のはにかんだようにクスッと笑う声が聞こえた。

（相談の中で感じたことを紹介したもので、実際の相談内容とは異なります。）

ご支援 ありがとうございました

2025年９月１日～2025年11月30日（敬称略・あいうえお順）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

年会費

天野　明
有山　雄基
飯田　栄子
生駒交通㈱
生駒ライオンズクラブ
石田　美知子
植村　正純
浦　　晶子
大橋　浩一
おがわ歯科クリニック
奥田　和男
小野　美知江
㈶川上村社会福祉協議会
川島　美鈴
木口　朗子
北神　希三余
北村　勝年
北森　基之
木村　正子
訓覇　秋麿
国際ソロプチミスト奈良-まほろば
御所ライオンズクラブ
佐藤　靖弘
三和建設㈱
柴田　麗子
養護盲老人ホーム慈母園
清水　幹夫
新宅　良子
髙橋　美都
高橋　みのり
髙谷　三郎
田中　惟允
㈻東大寺学園
遠山　由美
冨田　和之
中島　ふみこ
中野洋税理士事務所
奈良県中学校 校長会
奈良県立橿原高等学校
奈良県立商業高等学校
西光院　西村　明浩
林　直子
広田　利子
福田　清子
法隆寺
前　智子
前川　貴洋
牧野　津恵子
松本　篤子
NPO法人 奈良県精神障害者家族会連合会まほろば会
三岡　佐智世
宮本　しげ子
森川　和郁
森下　泰行
矢追　千寿子
薬王製薬㈱
安田　暎胤
山田　守宏
大和郡山市部長会
吉田歯科医院
吉野町役場
米田　幸代

特別寄付

あいあいさろん
生駒市東地区民生委員会
生駒東小学校区防災訓練及びフェスティバル参加者
今井　紀明
インターンサポーター係一同
岡田　和子
佐伯　俊源
公開講演会チャリティボックス
チャリティゴルフ
チャリティーバザー
中華料理　福の虎
天理市社会福祉協議会
天理市研修会参加者一同
平井　道子
ブラッシュアップ研修１受講生一同
北條　正崇
松井　利佳
宮崎　美和子
匿名

会員だより vol.21

資金会員として永年ご支援いただいております東大寺チャリティ作品展に行って、素敵な色紙に出会いました。橋村公英管長の「松濤」の色紙です。揮毫も素晴らしいのですが、添え書きの言葉がいのちの電話の相談に携わる者にとって勇気づけられるものでした。管長様のご了承を得て皆様にご紹介します。

『松濤』（しょうとう）

「聴松濤」（しょうとうをきく）などと用いられる。

「松」は松風（まつかぜ）の音、「濤」は波立つ様。松風の音を波立ちに喩えて、「今」「此処」に、しずかに心を添わせ、向き合う事に喩える。松には神が天下るとも言われるが、『松濤』は神仏の気配でもあり、湯のたぎる音でもあり、命の声でもある。

奈良の観光情報まとめサイト
NARABURA
HP NARABURA
X (旧Twitter)

共同精版印刷株式会社 奈良ぶら事業部 TEL. 0742-33-1221 奈良ぶら 検索

飛鳥カンツリー倶楽部 〒631-0072 奈良市二名７丁目1441番地
TEL 0742－45－0881 FAX 0742－47－2626

私たちも奈良いのちの電話を支援しています

インフォメーション

相談電話 24時間ホットライン「いのちの電話」(0742)35-1000 **24時間受付**

自殺予防いのちの電話
- ナビダイヤル 自殺予防いのちの電話 0570-783-556 毎日 10:00～22:00
- 自死遺族等支援 “よりそいの会あかり” (0742)35-7200 火 10:00～16:00
- フリーダイヤル 自殺予防いのちの電話 0120-783-556 毎月10日 8:00～11日 8:00

健全育成 子育て・青少年 奈良すこやかテレフォン (0742)35-1002 月～金 18:00～21:00 土・日・祝 13:00～16:00

いのちの電話インターネット相談 ＊日本いのちの電話連盟の仲間と受けています。
https://www.inochinodenwa.org

広報誌のバックナンバーはこちらからご覧になれます。
https://www.nara-inochi.jp/m3_4.html

あゆみ

9月

日	内容
2	ブラッシュアップ研修４
4	第64回友の会シネマサロン
6	養成講座19
7	認定委員会
	48期相談員受け入れ面接
11	イオン黄色いレシート活動参加
13	運営委員会
	養成講座20
20	養成講座21
24	天理市社会福祉協議会講師派遣
25	なら被害者支援ネットワーク少年被害者支援専門部会
27	養成講座22
30	ブラッシュアップ研修１

10月

日	内容
1	広報誌秋号第402号発行
2	第65回友の会シネマサロン
4	養成講座23
5	48期養成課程修了式
	48期新相談員就任式・歓迎会・オリエンテーション
7	日本いのちの電話連盟事務局長会議
	ブラッシュアップ研修４
9	すこやかテレフォン視察研修会
10	広報委員会
11	運営委員会
	養成講座受講生増加PT会議
	イオン黄色いレシート活動参加
	養成講座24
18	養成講座25
21	自死遺族支援検討会・シェアリング
22	研修委員会
25	公開講演会
	相談員委員会
	養成講座26
26	プロアクティブミーティング３
28	ブラッシュアップ研修１

11月

日	内容
1	養成講座27
4	第23回チャリティーゴルフコンペ
	ブラッシュアップ研修４
8	運営委員会
	養成講座受講生増加PT会議
	養成講座28
9	インターンサポーター研修
	全体事例研修Ｂ
11	イオン黄色いレシート活動参加
13	すこやかテレフォン自主研修会
15～16	養成講座(一泊研修) 29，30，31
16	第21回チャリティバザー
18	理事会
22	養成講座32
23	自死遺族支援よりそいの会あかりつどい
25	ブラッシュアップ研修1
27	友の会秋の研修・交流会
28	犯罪被害者支援県民のつどい
29	認定委員会
	49期インターン受け入れ面接
	相談員委員会

おしらせ

新春交流会

日　時　2026年１月12日（月・祝）13：00～
場　所　リガーレ春日野
参加費　5,000円
お申し込みは事務局まで TEL. 0742-35-0500

第50期電話相談員養成講座受講生募集

開講期日　(前期) 2026年４月25日～８月１日
(後期) 2026年８月22日～11月21日
毎週土曜日　14:00～16:00
受 講 料　前期・後期　各25,000円
開催場所　NID会館（奈良市西大寺本町８-27）

詳しくは同封のチラシ、又は「奈良いのちの電話」ホームページをご覧ください。

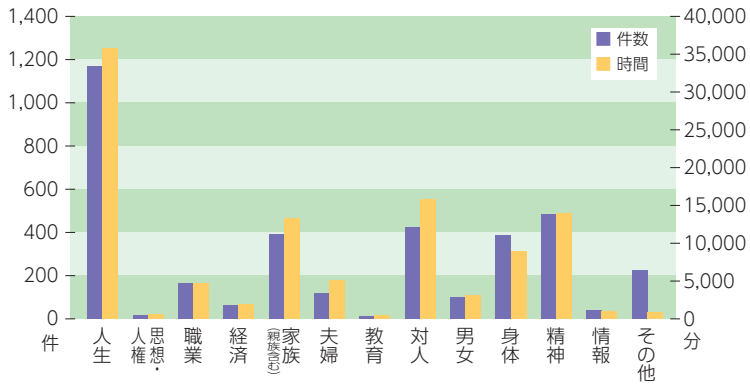
ご案内

第66回　友の会シネマサロン

「きみの瞳(め)が問いかけている」
監督　三木 孝浩
出演　吉高 由里子　横浜 流星
日　時　2026年２月４日（水）13：30～
会　場　NID会館３階
参加費　500円（茶菓子代含む）

記録

奈良　35局1000番の受信状況　令和７年８月～令和７年10月



８月～10月	受信総件数	4,935件
８月～10月	相談件数	3,598件
８月～10月	相談時間	1,758時間7分

S54年11月1日～R７年10月31日
受信累計　１，３４４，１７６件

編集後記

表紙の写真は、壷阪寺の大雛曼荼羅です。毎年３月に本尊十一面千手観音様と多くの雛人形が飾られます。ご本尊は、眼病に霊験あらたかであると信じられ「目の観音様」と親しまれています。雛人形は、子どもに災いが降りかからないようにという願いや人生の幸福が得られるようにという気持ちを込めて飾られる人形です。

今回の特集では、公開講演会での今井紀明氏のお話を掲載しました。自身の体験を糧にして、苦しい状況のなかで生きる若者への支援を考え実践しておられます。若者が自らの力で未来に向かうように援助される今井氏の熱い想いが、伝わってきました。

私たちも、今井氏や雛人形のように若者の未来を応援していきたいです。（吉）

発　行　令和８年１月１日
創　刊　昭和54年10月20日
発行人　森　岡　正　宏
編　集　協会広報委員会
印　刷　共同精版印刷㈱